

バッティングにおいて前打席の結果が次打席に及ぼす影響 —イメージと実際の差を中心に—

福島 誉之 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

担当教員 新井 博

キーワード：前打席，次打席，結果，要因

1. 緒言

私は兄の影響で野球を始め小学生の頃から大学4回生の春まで野球を続けていた。野球のプレーでの様々な場面や、スポーツ全般でモチベーションがプレーの結果に繋がることが多く見られると私は考えている。自分が野球をプレーしてきて試合中の打撃面では平均的にどの試合も結果を残している選手もいれば、日によって調子の変動しやすく、波があり毎試合結果が大きく左右する選手もいる。そのようなあらゆるタイプの選手がいる中で前の打席の結果が、次の打席の結果に繋がる選手が多いのではないかと自分は考えている。

そこで本研究では、前打席の結果が次打席に及ぼす影響（結果が出せる人と、そうでない人の違い）について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

研究方法としてはアンケートを作成し、本大学の野球部員（主にレギュラーメンバー）約20人に、各自本人の前打席の結果次第での、次打席の結果の良し悪しをイメージしてもらい、イメージ上でのアンケートをとる。またそのアンケートの結果と、スコアブックの結果を照らし合わせる。スコアブックからとる結果は、主に一打席目の結果を参考にし、前打席と次打席が違う投手であってもデータを出す。

また、B 大学硬式野球部員 2016 年度京滋リーグ春季リーグ戦メンバーの野手 20 名の結果をコアブックで確認し、そこから 2016 年度京滋リーグ春季リーグ戦 10 試合を選びその中から

一人一人の打席数、打率、四死球数を出し、またその中から 5 試合以上（1 試合 3 打席以上）打席に立っていて打率が 3 割以上ある者を A、5 試合以上（1 試合 3 打席以上）打席に立っていて 2 割以上、2 割 9 分 9 厘以下を B、その他の選手を C として野手 20 名を区分する。

そこから各区分の回答者の意見を抽出して、A・B・C の回答者の意見の違いを出す。

3. 結果と考察

上記で示したように、アンケート結果とスコアブックの結果を比較したところ、区分 A が 5 人、区分 B が 6 人、区分 C が 9 人となった。アベレージに率を残している A の人たちと、その他の区分 B・C とで意見の具体性によって変化が見られた。次の打席に対する、前の打席の反省が区分 A の人たちの方がより具体性があった。これにより結果に繋がったと考えられる。

4. まとめ

今回の研究から前の打席の結果に対しての考え方で、次の打席で結果を出す人と出せない人が分かれた。前打席の結果が次打席に及ぼす影響はこれだけではないが、前の打席に対する考え方が要因の 1 つであることが分かった。

引用参考文献

- 1) 碓井真史 (1992) 内発的動機づけに及ぼす自己有能感と自己決定感の効果.
- 2) 鶴瀬 亮一 (2007) 野球の打撃における「引き付けて打つ」という指導言語に関する一考察.